

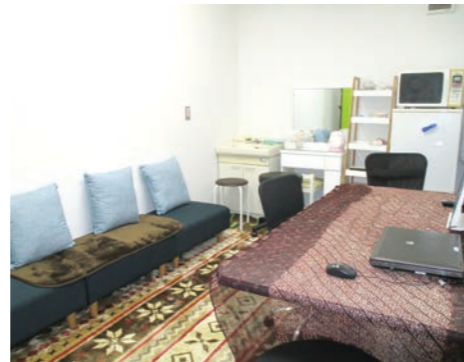
キャリア支援委員会の創設

ばんたね病院に「キャリア支援委員会」を創設し、ばんたね病院の女性医師、研修医の就労環境改善から、より効率化したWork Life Balanceを目指す活動をする事となりました。

ばんたね病院の全医師数は2021年11月1日現在で118名（内女性医師24名：20.3%）です。女性研修医は4名（初期研修医1年目3名、2年目1名）で全研修医11名中36.3%を占め、若手医師に女性が増え続ける傾向が伺えます。

特に女性医師の離職2大原因とされる「出産・子育て」への支援、離職防止、キャリアへの復職支援、キャリア支援は最重要の支援課題です。伴って完成したキャリア支援委員会では、ハード・ソフト面の充実、マインドセットができるよう調整室としても役割を果たします。2024年4月からスタートする「医師の働き方改革」へ期待される貢献として、タスクシフト、タスクシェアも念頭に今後、女子医学生、女性研修医とともにより良き、快適な就労環境の中での「患者様に寄り添うばんたね病院医療」を提供できるよう努力を重ねていきたいと思っております。

皆様からのご意見、ご指導をお願い申し上げます。



キャリア支援委員会 アドバイザー
脳神経外科 教授、統括副院長 **加藤 庸子**

ばんたねニュース

FUJITA HEALTH UNIVERSITY BANTANE HOSPITAL



VOL. 46

2021年
12月1日発行

診療お知らせメールサービスの案内

ばんたね病院では、2023年7月竣工予定で「新棟建設」の工事を行っています。当該工事に伴い、一部診療科の診察室や採血室が「外来棟」(図参照)に移設されておりますので、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

なお、「外来棟」での診察開始に合わせて、新たに「診療お知らせメールサービス」を開始いたしましたので、ぜひご利用いただきますようお願い申し上げます。

工事期間中は外来棟にて診療を行っています
Medical care with the New Outpatient Building of following mention during a construction period.


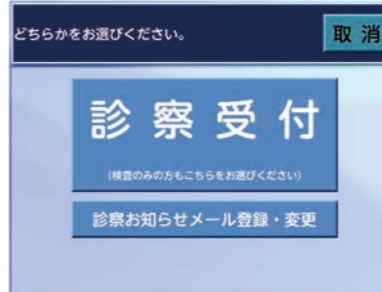
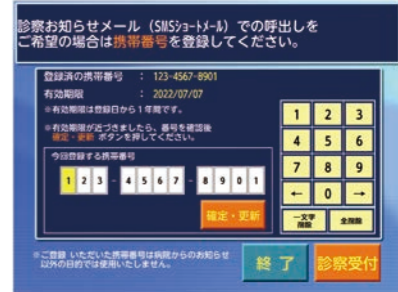
2F	外来診察室1~12 Outpatient Consulting Room 産婦人科・小児科 Obstetrics & Gynecology / Pediatrics 耳鼻咽喉科・眼科 Otorhinolaryngology / Ophthalmology 化学療法室 Chemotherapy Room	外来棟 Outpatient Building
1F	外来診察室1~14 Outpatient Consulting Room 内科・泌尿器科 Internal medicine / Urology 麻酔科 Anesthesiology 採血室 Blood Sampling Room 中央処置室 Central Sterilization Room	

診療お知らせメールサービスの利用登録の方法

患者さんがお持ちの携帯電話に
【診察順が3番目以内】になったらお知らせメールを送信します。



自動再来受付機

- 1.自動再来受付機に診察券を挿入します

- 2.「診療お知らせメール登録・変更」ボタンを押します

- 3.携帯電話番号を入力し、「確定・更新」ボタンを押して登録は完了です


診察受付 続けて診察受付を行なっていただけます
終了 利用登録画面を終了します

- ご登録いただいた携帯電話番号は、本サービス以外の目的で利用することはありません。
- 本サービスは無料でご利用いただけます。
- 以下の場合は、本サービスをご利用いただけません。
 - ・SMS受信拒否設定を行っている
- 操作等、不明な点につきましては最寄りの係員にお尋ねください。

第66回中川金魚まつり

2021年10月23日(土)に第66回中川金魚まつりが開催されました。毎回、当院からは看護部が救護班として参加しています。また今年は、脳神経外科 教授 加藤庸子先生が脳卒中予防について、呼吸器内科 准教授 廣瀬正裕先生がコロナ対策について話をしました。



堀口 明彦病院長



廣瀬 正裕准教授 (呼吸器内科) 加藤 庸子教授 (脳神経外科)

匿名加工情報の作成及び第三者提供について

○匿名加工情報の作成について
当院が保有する患者様の個人情報について、当院は、特定の個人を識別すること及び個人情報を復元することができないよう適切な措置を講じたうえで匿名加工情報として作成いたします。
【匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目】
・診療のために収集された診断画像

○匿名加工情報の第三者提供について

当院が作成または保有する匿名加工情報について、当該情報が匿名加工情報であることを明示したうえで、継続的に第三者に提供いたします。
【匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目】
・左記「匿名加工情報の作成について」における「匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目」と同一の項目
【提供の方法】
・紙媒体により当院内で配布および院外の医療施設へ郵送
・当院Websiteにて掲載

藤田医科大学ばんたね病院

FUJITA HEALTH UNIVERSITY BANTANE HOSPITAL

〒454-8509 名古屋市名川区尾頭橋3丁目6番10号

TEL 052-321-8171 FAX 052-322-4734 発行 広報委員会

QRコードで今すぐアクセス

ばんたね

検索



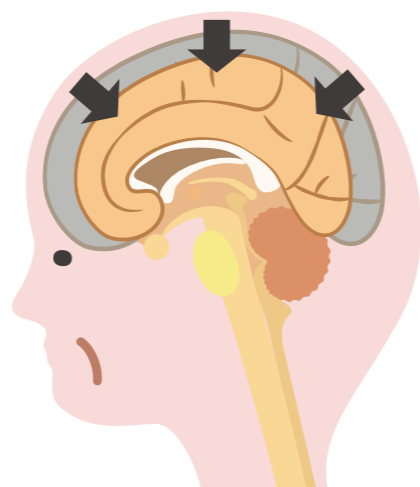
認知症の治療と予防について



認知症とは…

認知症は、「通常、慢性あるいは進行性の脳疾患によって生じる記憶や思考、見当識、理解、計算、学習、言語、判断など多数の高次機能障害からなる症候群」とされています。特に、これらの障害により、日常生活が阻害されている場合、認知症と診断されます。

現在、認知症は様々な疾患により生じることが分かっています。基礎疾患により、認知症の症状も、いわゆる「物忘れ」以外の様々な症状を認めるため、認知症の診断は、より複雑なものになっています。



症状や治療内容

認知症の代表的な症状は、何といても「物忘れ」が一番に挙げられます。特に、約束などを忘れてしまっても、誰かに指摘され「そういえばそうだった」と、約束したことなどを覚えている場合は、正常範囲内の物忘れのことが多く、「病的な物忘れ」は、約束したこと自体を覚えていないのが一般的です。物忘れを主な症状とするアルツハイマー型認知症では、物忘れ以外に、日時などの時間や場所が分からなくなる見当識障害を伴うことが多く、病気が進行するにつれ、「財布を取られた」といった物盗られ妄想などの症状を認めることもあります。また、レビー小体型認知症では、見えない人が見えるといった幻視や動作が鈍くなるなどの運動症状を伴うこともあり、前頭側頭型認知症では、我慢ができなくなってしまい、すぐに怒り出したり、周囲の状況を顧みず、自分勝手な行動を繰り返すなどの症状を認めることがあります。

これらの認知症に対して、現在のところ、認知症を治したり、病気の進行を止めるような薬剤は存在しません。脳を活性化することにより、残っている脳の機能をあげ、認知症の症状を改善する薬剤がメインとなっています。適度な運動や社会的生活を維持することが重要で、自分のペースで良いので 20 分前後の散歩をする、人の集まる場所で家族以外の人と会話をする、などが重要です。家でゴロゴロしながら、一人でテレビを見ているだけ、というのが最も良くありません。



ばんだね病院の診療体制

認知症の診療は、ばんだね病院 脳神経内科で行っております。

現在、脳神経内科医は 4 名在籍しており、月・火・水・金曜日に外来診療を担当しております。診療をご希望される方は、かかりつけ医の先生から、紹介状を持参していただくと診療がスムーズになりますので、紹介状を持参してください。

頭部 MRI や採血で甲状腺機能やビタミンなどをチェックさせていただき、必要があれば、他の検査を組み合わせ診断し、疾患に合わせた治療を行わせていただきます。

外来医師担当

	月	火	水	木	金	土
脳神経内科	中野 頌子医師	千田麻友美医師	伊藤 瑞規准教授		加子 哲治医師	



脳神経内科 准教授

伊藤 瑞規 医師

【専門分野】

神経内科一般、神経変性疾患

【認定資格等】

日本神経学会専門医

日本内科学会総合内科専門医

日本認知症学会専門医

認知症の予防について

現在、認知症有病者数は 600 万人を超え、今後も年々増加していくことが予測されています。認知症患者に対する治療は大きく分けて薬物療法と非薬物療法があり、非薬物療法のひとつにリハビリテーションがあります。

当院のリハビリテーション科・部では、入院患者さんを対象に特定の認知領域、例えば記憶障害に焦点を当てた認知機能訓練や時間や場所、周りの人のことなど自分が置かれている状況を把握する機能である見当識の改善を目的とした認知刺激、運動療法などを行います。

運動療法は、認知機能や日常生活の活動が改善する可能性があるとされています。また、ご本人の生活のしやすさやご家族の困りごとについても着目します。認知症の行動・心理症状（徘徊、妄想、幻覚、不安など）に対しては安心させる声かけや態度を基本として接し、心理的な安定を図るために昔の話や思い出を利用した回想法も用いたりします。状態に合わせて適した内容を組み合わせ、ご本人やそのご家族が安心して生活できるよう介入をしています。

(文責：リハビリテーション部 古川)

